

ザビエル生誕500年 記念イベント次々

南蛮文化に思い

日本にキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエル（1493-1551）の生誕500年を記念するイベントが今秋、相次いで計画されている。コンサートにウオーキング、創作劇と多彩だ。国内最後の布教の地となった大分でのザビエルの足跡をたどり、400年以上前の異文化交流に思いを馳せてみてはいかが。

（山本亮介）

大分市中央町8丁目のカトリック教会では、15日（土）午後6時半から、ザビエルが生まれ故郷で耳にしたという古聖歌が披露される。信者でなくても入場できる。主催するNDPの法

大分市中央町8丁目のカトリック教会では、15日（土）午後6時半から、ザビエルが生まれ故郷で耳にしたという古聖歌が披露される。信者でなくても入場できる。主催するNDPの法

人とおおいた豊後ルネサンス」の日野直子さんは「祈りの歌の原点。砂漠のオアシスのような響きを生み出してほしい」と呼びかけている。



スペインから来日する聖歌隊「スコラ・アンティカ」（おおいた豊後ルネサンス提供）

15日には日出町で、ザビエルが通ったという道をコースにした「ザビエルの道ウオーキング大会」がある。ザビエルは1549年9月、山口から日出の鹿嶋越道を通って太田浜に出て、府内（大分市）に向かった。京都で天幕に謁見できず、失意の底に沈んだ道中だったとみられる。

同町の中央公民館などを出発するコース12キロ、3コースがあり、当日受け付けも可。町商工観光

大分カトリック教会 聖歌隊が来日